

# 自動車会議所 ニュース

発行所



一般社団法人 日本自動車会議所  
Automobile Business Association of Japan

☎105-0012

東京都港区芝大門1-1-30 日本自動車会館

電話：03(3578)3880

FAX：03(3578)3883

URL

<https://www.aba-j.or.jp>



2023 **6・7** No.950

発行人 山岡 正博 編集人 田村 里志



**日** 本自動車会議所は6月16日、東京・千代田区の経団連会館で第89回定時総会を開催し、「2022年度事業実績・2023年度事業計画」、「2022年度決算・2023年度予算」、「理事選任」の3議案が審議され、いずれも原案通り承認されました。今回は改選期ではなかったものの、代表者変更に伴い、日本自動車輸入組合理事長の上野金太郎氏が理事に就任しました。

総会後には定時総会懇親会が開催され、国会議員約160名（代理出席を含む）をはじめ、会員、関係団体・企業、関係省庁、メディアなどから約350名の皆さまにご出席いただきました。コロナ前と同様に総会懇親会が開催されるのは4年ぶりとなります。懇親会では、まず内山田会長が挨拶に立ち、「こ

れまで以上に自動車業界の結束が求められている今こそ、当会議所は自動車関係の総合団体として、引き続き着実にその役割を果たしてまいりたいと力強く抱負を述べました。

この後、来賓の西村康稔経済産業大臣、西田昭二国土交通大臣政務官に続き、細田博之衆議院議長、高市早苗経済安全保障担当大臣、松本剛明総務大臣、加藤勝信厚生労働大臣、後藤茂之経済再生担当大臣が挨拶。続いて、金子直幹副会長（日本自動車販売協会連合会会長）と竹林武一副会長（日本自動車整備振興会連合会会長）が登壇し、金子副会長の乾杯の発声で懇親会が始まり、出席者による懇談・懇親の輪が広がりました。

＝関連記事は2～8ページに掲載＝

### ◆◆ 主な内容 ◆◆

- 第89回定時総会開催.....2
- 2023年度 定時総会懇親会開催.....3
- 東京都自動車会議所が第49回通常総会開催[東京都].....9
- 新宿警察署が交通安全イベント開催.....9
- 飲酒運転させないTOKYOキャンペーン展開[東京都].....9
- 第291回／第292回会員研修会開催.....11

（主な記事はホームページ＝<https://www.aba-j.or.jp>＝にも掲載しています）

## 第89回定時総会開催

# 内山田会長が「自動車業界 550万人の結束を目指し 総合団体として着実に役割を果たす」と抱負を述べる

### 第

89回定時総会では、審議に先立って内山田竹志会長が挨拶し、「自動車業界は厳しい環境の中にあっても、カーボンニュートラルやSDGsの実現、DX（デジタルトランスフォーメーション）をはじめ、さまざまな目標へのチャレンジを続けていかなければなりません。加えて、自動車という一つの業界を超え、より広がりのある『モビリティ』というキーワードで繋がる産業が連携し、課題を克服しようという新たな取り組みも始まっております。これまで以上に自動車業界550万人の結束が求められている今こそ、当会議所は自動車関係の総合団体として、引き続き着実にその役割を果たしてまいる所存です」と力強く抱負を述べました。

この後、内山田会長を議長に選出し、内山田会長による議事進行の下、議案の審議に入りました。総会では、事務局から「2022年度事業実績・2023年度事業計画」、「2022年度決算・2023年度予算」、「理事選任」の3議案について説明し、審議の結果、いずれも原案通り承認されました。

当会議所では、事業計画において重点分野を「業界結束強化」、「税制」、「交通安全」、「保険」、「クルマ・バイク好き拡大」とし、関係業界の支持・支援の



議事進行を執り行う内山田会長（写真左から4人目）

下、▽表彰制度「クルマ・社会・パートナーシップ大賞（CSP大賞）」、「ジャパンモビリティショー2023」の盛り上げ、▽過重で複雑な自動車関係諸税の抜本見直し、▽体験型交通安全イベント「交通安全。アクション」、▽自賠責積立金約5,900億円の早期全額返済に向けた理解活動、▽ホームページ・SNSを活用した、クルマ・バイク関連のイベント情報などの提供充実——をはじめ諸活動を展開することとしています。特に、2050年カーボンニュートラル実現に向け、経団連モビリティ委員会や自民党自動車議連などとの連携を取りながら、重点的に動向をフォローしていきます。

### 日本自動車会議所 役員名簿

2023年6月16日現在（順不同、敬称略）

〔会 長〕	内山田 竹 志	学識経験者（代表理事）	
〔副 会 長〕	豊 田 章 男	（一社）日本自動車工業会	会 長
	金子直 幹	（一社）日本自動車販売協会連合会	会 長
	坂本克 己	（公社）全日本トラック協会	会 長
	清水一 郎	（公社）日本バス協会	会 長
	清川鍋 一 朗	（一社）全国ハイヤー・タクシー連合会	会 長
	有馬浩 二 一	（一社）日本自動車部品工業会	会 長
	竹林武 一 一	（一社）日本自動車整備振興会連合会	会 長
〔理 事〕	赤間俊 一 一	（一社）全国軽自動車協会連合会	会 長
	上野金太郎	日本自動車輸入組合	理事長《新任》
	海津博	（一社）日本中古自動車販売協会連合会	会 長
〔専務理事〕	山岡正 博	事務局担当（代表理事）	
〔常務理事〕	畠山太 作	事務局担当	
〔理事(常勤)〕	橋本勝 也	事務局担当	
〔監 事〕	安原敬 裕	（一社）全国自動車標板協議会	会 長
	細谷和 男	（株）SUBARU	取締役会長
	原 典 之	三井住友海上火災保険(株)	取締役会長

# 一般社団法人 日本自動車会議所 2023年度 定時総会懇親会

## 内山田 竹志会長 挨拶

本日は、国会開会中であり、また公務ご多用の中、経済産業大臣の西村康稔様、国土交通大臣政務官の西田昭二様はじめ、政府・国会議員の皆さま、当会議所の会員の皆さま、そして自動車関係団体・企業の皆さまなど、このように多くの方々にお集まりいただき、本当にありがとうございます。



コロナ禍前の状態で総会後の懇親会を、4年ぶりにこうして開催することができました。皆さまと直接お会いできる場を持てるということ、大変ありがたく、また嬉しく思っております。

さて、先ほど開催されました総会におきまして、ご提示いたしました議案につきましては、全てご承認いただきましたことを、まずは皆さまにご報告申し上げます。

いま、少子高齢化をはじめ、大きな社会課題が山積する中で、われわれ自動車産業挙げてカーボンニュートラルの実現や、DX・GXの推進にチャレンジしております。そうした中で、自動車産業の再結束という活動の大きな方向性に向けて、いつも申し上げているように、当会議所は550万の自動車産業にかかわる人々の力を一つにまとめる総合団体としての役割を果たしていきたいと思っております。

本年は、「ジャパンモビリティショー 2023」も行われますので、ここにおられます皆さまをはじめ自動車産業の力を集めて、その盛り上げを会議所としても実行していくと同時に、従来から進めております重点事業、すなわち税制、交通安全、自賠責の繰り戻し、そして自動車ファン・バイクファンを拡大していくという重点事業を柱に活動を進めてまいりたいと思っておりますので、どうぞ皆さま、よろしく願います。

これまで以上に自動車業界の結束が求められてい



る今こそ、当会議所は自動車関係の総合団体として、引き続き着実にその役割を果たしてまいり所存です。

とりわけ、「税制」につきましては、先の大綱においてエコカー減税の据え置き・延長を実施していただき、本当にありがとうございました。心からお礼申し上げます。しかしながら、わが国の自動車ユーザーは、まだまだ大きな税負担を強いられております。自動車の購入から保有、そして使用、このプロセスで極めて複雑で過重な税が自動車には課せられておりますが、これは世界的に見ても非常に重いユーザー負担となっております。

先ほども申し上げましたカーボンニュートラルの実現に向けては、税体系も抜本的に見直しをされるものと思っております。これを一つの大きな機会ととらえ、自動車ユーザーの負担が軽くなるよう、われわれも税制について勉強し、また皆さまと連携をしながら改革を進めてまいりたいと思っております。特に政府・国会議員の皆さまにおかれましては、何卒、ご検討のほどよろしくお願い申し上げます。

当会議所は、自動車関係の総合団体として、引き続き業界の連携促進と発展・向上に尽力してまいります。今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。本日は限られた時間ではありますが、せっかくの機会ですので、この後、時間の許す限り、ご懇談いただければ幸いに存じます。

最後に、ご出席の皆さまのますますのご健勝とご発展を祈念いたしまして、開会のご挨拶とさせていただきます。

## 来賓ご挨拶

掲載順は会場でご挨拶された順

## 西村 康稔経済産業大臣 ご挨拶

本日、日本自動車会議所の定時総会、そして総会懇親会が盛大に執り行われますことを心からお祝い申し上げます。

今国会はまさに自動車国会と言ってもいいほど、与野党を超えて毎日のように自動車をはじめ電池や燃料についてさまざまな質問を受けました。地殻変動ともいべき大きな変化が起きている中で、自動車産業が引き続き日本の中核であってほしいという、そんな思いが投げ掛けられたのだと思います。私自身も大きな期待を持っており、さまざまな変化球を乗り越えていくための取り組みを、官民挙げて、そして政府与党を挙げて実施していかなければなりません。

まさにEVシフトが想定以上のスピードで進んでいます。世界ではEVが新車販売の10%を占めるように変化しており、自動運転もあちらこちらで実証実験が行われています。日本でもこうした動きが進んでおり、先般は、トヨタ自動車、ダイムラー



ック、日野自動車、三菱ふそうトラック・バスの協業が発表されました。また、経済産業省でもEV向け蓄電池の技術開発や設備投資を後押しするために、トヨタやホンダなどに助成などの支援をしています。これまでにない発想によるグローバルかつ大胆な投資こそがイノベーションをおこすと思いますので、全固体電池の開発加速に期待しています。

EV開発に向けたソニーとホンダの協業、あるいは九州でEVバスに挑戦するスタートアップなどさまざまな動きが出ています。先般、福井県永平寺町では日本初のレベル4の自動運転サービスを開始し、これを皮切りに全国50カ所で展開されていきます。

変革を乗り越えて、日本の自動車産業が世界をリードしていただきたいと思ひますし、日本経済の中核であり続けていただきたい。それをおこしていくのは、まさに技術力。これまでの技術力を生かしながらも、これまでの発想にとらわれないオープンイノベーションであり、まさにアニマルスピリットです。日本を挙げて、このアニマルスピリットをかき立てて、未来への挑戦をしていければと思います。経産省としても全力で応援をしていきたいと思ひます。

自動車産業のますますのご発展を祈念いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。共に頑張っていきましょう。

## 懇親会場スナック



懇親会には、国会議員をはじめ、会員、関係団体・企業、関係省庁、メディアなど大勢の関係者が出席

## 西田 昭二国土交通大臣政務官 ご挨拶

本日は日本自動車会議所定時総会ならびに総会懇親会が盛会裏に開催されますことを、心からお祝いを申し上げますとともに、日頃から国土交通行政に多大なるご理解、ご協力、ご支援を賜りますことに感謝・御礼を申し上げます。



国土交通省では自動車関連産業をめぐる環境の変化に対応し、自動車分野のGXやDXを強力に推進するとともに、安全安心なクルマ社会の実現と、自動車関連産業のより一層の発展に向け、さまざまな施策に取り組んでいるところです。具体的には、2050年カーボンニュートラルの実現に向け、バスやタクシー、トラックなどの商用電動車の導入について、事業者の皆さまのニーズにしっかりと応えることができるよう、経済産業省をはじめ関係省庁とも連携し、今年度は大幅に支援を拡充し自動車分野のGX推進に取り組んでいるところです。

また、自動運転につきましても、将来の地域の交通手段の担い手として期待されており、自動運転サービスを2025年度には50カ所、2027年度には100カ所での実施を目指し、実証事業に取り組む地域を指定していくことにしています。

これに加え、自動車の検査登録手続きのデジタル化にも取り組んでおり、本年1月には電子車検証の交付を開始しました。引き続き自動車関連情報や手

続きのデジタル化を進め、自動車ディーラーや整備事業者をはじめとする皆さまの利便性向上を図っていきます。

また、現在、各業界において人手不足が問題となっていますが、特に物流分野においてトラックドライバーの不足が深刻です。2024年度からはトラックドライバーに新たな時間外労働の上限規制が適用され、いわゆる物流2024年問題による影響が懸念されており、こうした状況に対し岸田総理からの指示により、6月2日には物流革新に向けた政策パッケージ「物流の適正化・生産性向上に向けた荷主事業者・物流事業者の取組に関するガイドライン」が取りまとめられました。国土交通省では、経済産業省など関係省庁と連携し、取引環境の適正化や労働環境の改善などを通じた担い手の確保、生産性の向上など対策にスピード感をもって取り組んでいくことにしています。

同じく人手不足が深刻なバス・タクシー業界や自動車整備業界においても、事業者による人材確保の取り組みに対する支援を充実させていくことにしており、業界の皆さまとともに自動車関連産業の魅力の向上に取り組んでいきたいと思っております。

また、自動車事故防止対策や事故被害者の方々への支援について、昨年度に自動車損害賠償保障法等を改正し、取り組みをより一層拡充しています。安全安心なクルマ社会の実現に向け、皆さまとしっかりと連携して取り組んでまいります。

結びに、日本自動車会議所のますますのご発展と、本日ご出席の皆さまのご健勝・ご活躍を祈念申し上げます、ご挨拶の言葉といたします。



来賓のご挨拶に耳を傾ける出席者の皆さん

## 細田 博之衆議院議長 ご挨拶

日本自動車会議所の総会が無事に終了し、誠におめでとうございます。

内山田会長をはじめ、これまで税制の議論では大変なご苦勞をされてこられました。特に消費税率アップに伴う自動車税制の見直しでは、自動車取得税は廃止することになりました



が、環境性能などいろいろな観点から見直しが行われました。抜本見直しはまだ道半ばだと思いますが、今後、カーボンニュートラル実現に向けたGXなどによって世界が変わっていくわけですから、乗用車やトラックなどどこまで電動化を進めていくのか、そういった展望とともに税制を変えていく必要があります。もちろん、クルマの環境対応も考えていかなければなりません。

私は、自動車会議所は重大な使命を課せられていると思います。ぜひ頑張ってください。

今後ともいろいろな意味でご支援・ご指導をよろしくお祈りし、さらなる発展をお祈り申し上げます。

## 高市 早苗経済安全保障担当大臣 ご挨拶

本日は日本自動車会議所定時総会のご盛会、誠におめでとうございます。

内山田会長はじめ皆さまの大変なご努力で、新たな製品・サービスの開発、そして新たな生産方式、また販路の開拓などによって、日本経済が元気になり、イノベーションが生み出されています。心より感謝を申し上げます。

私は今、経済安全保障担当大臣ですが、昨年の12月に半導体、永久磁石、蓄電池、産業用ロボット、天然ガスなど「特定重要物資」として11物資を指定しました。予算も1兆300億円余りを確保し、サプライチェーンの強靱化には引き続き取り組んでいきます。現在、サプライチェーン調査の第二弾を実施するように各省にお願いしましたので、皆さまのお知恵もいただければと思います。

自動運転については、科学技術政策担当大臣としてSIP「戦略的イノベーション創造プログラム」でも応援をしており、これからレベル4、レベル5を目指していくことを考えると、測位が正確であることはかなり大事なことでと考えています。ちなみに、私は宇宙政策担当大臣も担当しており、今の4機体制で運用している準天頂衛星「みちびき」を、何としても来年度までに7機体制にしていく目標を掲げているところです。7機体制を1日も早く



実現して、自動運転も安心していただけるような体制をつくっていきたくと思います。

これからもご指導、よろしくお願い申し上げますとともに、皆さまのご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

## 松本 剛明総務大臣 ご挨拶

自動車は経済の面からも、暮らしの面からも、大変重要な役割を果たしていると感じていますし、地方をお預かりする私ども総務省の立場からすると、クルマが暮らしと仕事に欠くことのできないモノである

ということは申し上げるまでもありません。わが国でクルマをしっかりとつくっていただいて、しっかりと利用できる環境をつくる。他方で、地方財源の地方税が、どのような形で皆さまと調和してうまくいくかということ、一生懸命知恵を絞っていかねばならないと思っています。

私ども岸田内閣では「新しい資本主義の実現」を掲げ、さまざまな政策を前に進めています。資本主義を超える制度はありません。主役は民であり、市場であると同時に、本当に官民が連携しなければ解決できない社会的課題も大きくなってきている中で、これまでの官か民かではなく、官も民も連携していくことが主役だと、私も学んだところです。

わが国を支える大切な分野である自動車関連の皆



さまと私どもも、また政府もしっかりと連携をしてやらせていただきたい。その一翼を担えるように、私も精進してまいりたいと思いますので、ご指導をよろしくをお願いをしつつ、ご尽力いただいております。

### 加藤 勝信厚生労働大臣 ご挨拶

まずは何と言っても、コロナの関係では皆さまには大変ご協力いただきました。また経営面や雇用面で厳しいこともあったと思いますが、それを乗り越えていただきましたことに、心から感謝申し上げたいと思います。



また、春闘をはじめ賃上げに向けて本当に力強く推進をしていただき、そして特に人へ投資いただく、こうしたことを通じて構造的な賃上げがしっかりと進んでいく、そうしたことを通じて経済が成長していく、こういう流れをしっかりとつくっていただきたいと思っています。

実は私、3回目の厚労大臣をやっておりますが、最初に担当させていただいたときに「働き方改革関連法案」を成立させていただきました。

すでに製造業の皆さまには施行されていますが、トラック、バス、ハイヤー・タクシーといった運輸関連については、来年4月から残業規制などが適用されることとなります。(ドライバーの時間外労働時間の上限が年960時間に制限されることにより) 現在、物流面でさまざまな制約あるいは課題が指摘されていますが、日本自動車会議所の関係の中には運輸サービスを発注する方々も大勢いらっしゃると思います。荷待ち時間の合理化などさまざまな対応をしていただきながら、この960時間に向けて、それが現場において円滑に施行できるように多くのご協力をお願いいたします。

今日ご参列の皆さまには、まさに日本経済のど真ん中を支えていただいているわけですが、それぞれの産業に携わって働く皆さまが誇りを持って健康に働いていただける、こうした環境をしっかりとつくっていただきたいと思っています。

す役員の方々に感謝申し上げるとともに、わが国と自動車産業の発展をお祈りしてご挨拶にしたいと思います。

わが国のさらなる成長、発展に向けてお力をいただきますことを心からお願いを申し上げ、お祝いとさせていただきますと思います。

### 後藤 茂之経済再生担当大臣 ご挨拶

4年ぶりの懇親会開催ということですが、未知のウイルスとの戦いでは皆さまに本当にお世話になりました。やっと一つの山を越えた状況にあり、これからはしっかりと経済の再生に全力で取り組んでいくという気持ちでいます。



自動車産業を巡る状況については、先ほどからいろいろとお話がありましたけれども、本当に構造的な大変動期・変革期を迎えていると思います。これまでも、そしてこれからも、日本の産業の中心として頑張っていただけるように、官民が連携をしてしっかりと取り組んでいく必要があると思っています。

私の仕事に関連しては、まず今年は賃上げ率が30年ぶりの高水準となっており、中小企業においても3%を超える水準を確保できるようになりました。サプライチェーン全体の中で適切な価格をつけて、そして賃金やいろいろな支払いにしっかりと向けていただく。物価と賃金の好循環、そしてその後、積極的な投資を進めることによって生産性を高め、成長と分配の好循環、新しい資本主義をしっかりと前進させていくことが必要だと思っています。

そのためには、自動車産業にこれからも日本を引っ張っていただけてほしい。その気持ちでいっぱいです。

最後になりますが、今後の皆さまのますますのご発展を心よりお祈り申し上げて、私からのお祝いとお礼のご挨拶にさせていただきます。



大勢の出席者を前に挨拶する内山田竹志会長（写真右）



金子直幹副会長（日本自動車販売協会連合会会長）の「乾杯」の発声で懇親会が始まる。金子副会長の左は高らかに杯を上げる竹林武一副会長（日本自動車整備振興会連合会会長）



内山田会長と懇談する塩谷立衆議院議員（自動車議連幹事長、自民党税制調査会小委員長、写真右）



懇談する（左から）西村康稔経済産業大臣、甘利明衆議院議員（自動車議連「モビリティを軸に成長する未来社会を考える会」会長、自民党税制調査会顧問）、内山田会長



歓談する山口那津男参議院議員（公明党代表、写真左）と竹林副会長



和やかに懇談する（左から）西田昭二国土交通大臣政務官、関芳弘衆議院議員、宮下一郎衆議院議員、尾身朝子衆議院議員、山際大志郎衆議院議員（自動車議連事務局次長）



記念撮影に応じる（左から）金子副会長、片山さつき参議院議員、竹林副会長、赤池誠章参議院議員

## 第49回通常総会開催

4年ぶりに懇親会再開

東京都自動車会議所

**東** 京都自動車会議所は6月21日、東京・新宿区の京王プラザホテルで第78回理事会および第49回通常総会を開催しました。令和4年度事業実績・決算報告と同5年度事業計画・予算案を審議し、いずれも原案通り承認されました。総会終了後には4年ぶりに懇親会を開催。約100人が出席し、和やかな歓談の輪があちらこちらに広がりました。

通常総会の冒頭で挨拶した中川雅治会長は、新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置付けが5月に「2類」相当から「5類」に移行されたことに触れ、「私たちの日常生活の制約がほぼ解かれ、ようやく経済活動が正常な状態に戻りつつあります」と指摘。その上で「新車販売台数も5月まで9カ月連続で前年同月を上回り、インバウンド需要の回復により観

光バス、タクシーの需要も明るさが見えつつあります」と現状認識を述べました。

自動車関連業界を取り巻く環境については、「自動運転や地球環境対応の技術進展に伴い、それらの新技術に即した新しいクルマ社会を構築していくことが求められる一方で、人手不足対策と働き方改革の両立も迫られています」と厳しい現状を強調。「会員の皆さまが抱える共通の課題解決に向け、皆さまと一緒に考え、活動していく所存です」と述べました。

続いて令和4年度の事業実績や決算内容について事務局が説明。監事による監査報告を受けて、異議なく承認されました。その後、事務局が説明した同4年度の事業計画や予算内容についても異議なく承認されました。

総会終了後には新型コロナ禍により中止を余儀なくされていた懇親会を4年ぶりに再開。自民党所属の都議会議員や東京都環境局幹部からも招いて盛大に催されました。  
〔東京都自動車会議所〕



**警** 視庁新宿警察署は5月28日、東京・新宿区の新宿通りで交通安全イベント「自転車安全利用TOKYOキャンペーンin新宿通り」を開催し、多くの来場者で賑わいました。日本自動車会議所では協力団体として、トヨタ、ホンダより提供を受けて安全運転サポート車（サポカー）を展示したほか、ゲーム形式で俊敏性を測定できる機器「クイックアーム」のアトラクションを出展。このアトラクションは事故防止に必要な「認知・判断・行動」の能力を楽しみながら測定できるため、多くの来場者に体験いただきました。

会場は、JR新宿駅東口～伊勢丹前までの公道を一時的に歩行者専用として使用。メイン会場の新宿アルタ前では、スタントマンによる「スケアード・ストレイト交通安全教室」が行われました。4月か

ら自転車乗車中のヘルメット着用が努力義務化されましたが、自転車事故においてヘルメット未着用の場合、着用した場合と比べ致死率が2.6倍高くなります。本教室では自転車とクルマとの事故の模擬シーンをスタントマンが実演し、自転車事故に対する交通安全啓発活動を行いました。

このほか、伊勢丹前までの通りにパトカーや白バイ、サポカー、衝突安全試験後の車両が展示されたほか、自動車事故対策機構（ナ斯巴）による交通事故被害者による書道展や、都バスによるバスの死角体験会、誤発信防止システム搭載車両の試乗会も実施されるなど、子どもから大人までが楽しめるイベントとして賑わいました。



**東** 京都は6月30日、東京・江東区亀戸の大型商業施設で、警視庁交通部、東京都交通安全協

会との共催により「飲酒運転させないTOKYOキャンペーン」のキックオフイベントを開きました。“なんでだろうネタ”で人気のお笑いコンビ、テツandトモをゲストに招き、約200人の買い物客らを前に、両手を胸の前で交差させる「なんでだろう」のポーズで「飲酒運転は絶対にダメ」とアピールしました。

イベントでは冒頭、東京都生活文化スポーツ局都民安全推進部の馬神祥子部長が「飲酒運転を根絶するためにはドライバーに対する指導や取り締まりも大事ですが、一緒に過ごしている周りの方々の協力

もあってこそだと思っています。ぜひとも飲酒運転させない、許さないという空気を醸成していただきたい」と、キャンペーンの狙いを強調しました。

続いて、東京都の防犯マスコット「みまもりいぬ」、警視庁のマスコット「ピーポくん」とともにテツandトモがステージに登場。飲酒運転や7月1日から施行された電動キックボードの新しいルールについて、「なんでだろう」を連発しながら観客とともに学びました。

〔東京都自動車会議所〕



**警** 視庁愛宕警察署は7月1日、東京・港区の竹芝客船ターミナルで「飲酒運転させない東京キャンペーン」の一環として、飲酒運転根絶にむけた交通安全イベントを開催しました。日本自動車会

議所では協力団体として、事故防止に必要な「認知・判断・行動」の能力を楽しみながら向上できる俊敏性測定機器「クイックアーム」を活用したアトラクションや、飲酒体験メガネによる並行感覚の欠落体験などを実施。また、ポケモンステッカーや交通事故加害者による手記「贖いの日々」などの交通安全啓発グッズを配布するなど、小さな子どもから高齢者まで幅広く参加していただきました。

イベントでは、主催者である愛宕警察署から警視庁のシンボルマスコット「ピーポくん」と、東海汽船のマスコット「さるびあ丸」くんによる撮影会も実施。伊豆大島に向かう乗船客を対象に、飲酒運転防止の啓発グッズを配布するなど飲酒運転根絶の啓発活動と併せて、若年層に対する「闇バイト」への注意喚起なども行いました。



**国** 内外の最新の自動車整備・検査用機器を一堂に展示する「第37回オートサービスショー2023」(主催：日本自動車機械工具協会)が6月15日～17日まで、東京・有明の東京ビッグサイトで開かれました。自動車の電動化に伴い整備技術にも革新の波が押し寄せている中、94社・7団体が出展し、3日間で延べ3万5,770人が入場と、ほぼ前回(3万

7,245人)並みの盛況となりました。

同展示会は1948年に「自動車整備用機械工具実演展示会」として第1回を開催。73年に現在の名称に変更して隔年で開催してきました。しかし、2021年はコロナ禍に加え、東京オリンピック・パラリンピックの開催で会場の確保が難しくなり中止。4年ぶりの開催となった今回のテーマは「ヒトとクルマの未来を守る整備機器」とし、主催者である同協会の柳田昌宏会長は15日の開会式で挨拶に立ち、「最新の整備機器によって整備士の技術と業務量をサポートし、安全なクルマ社会の実現と人々の生活を守ることにつなげたいとの思いを込めた」とテーマについて説明。「これからも、私たちの業界が自動車の未来を切り拓くという気概を持って技術革新に取り組んでいきたい」と結びました。

〔東京都自動車会議所〕



日本自動車会議所は6月1日、東京・港区の日本自動車会館「くるまプラザ」会議室で第291回会員研修会を開催し、一般社団法人 シェアリングエコノミー協会代表理事の石山アンジュ氏が「シェアリングエコノミーの動向と課題」をテーマに講演しました。今回もリモートを併用し、全国自動車会議所など各地から約40名に参加いただきました。

石山氏は、デジタル庁シェアリングエコノミー伝道師、テレビ番組コメンテーターなどとしても活躍され、自らもシェアハウスを運営しています。講演では、具体的な事例を紹介しながら、シェアリングエコノミーがもたらす新しい社会や生き方・働き方などについて展望しました。



石山 アンジュ氏

市場規模が2022年で約2兆6,000億円にまで膨らんだシェアリングエコノミーは、シェアハウスやカーシェアリングはじめ、賞味期限間近や閉店間際の食材を無料・格安で融通するフードロス食材シェア、子ども預かり合い・介護のシェアなどあらゆる分野に広がっています。しかし、課題もあり、石山氏は「新しい産業ですので新しいルールが必要。安全安心な環境整備と国際標準化にも取り組んでいかなければなりません」と指摘しました。

石山氏は、「シェアリングエコノミーは、人の幸福度や生活の質を向上させていくという視点からも注目されています。わが国においては、格差の拡大や若者の将来の負担増、孤立・孤独などの問題が深刻化してきていますが、シェアリングエコノミーが社会を補完する選択肢の一つとして認識され浸透していくことにより、持続可能な社会を創っていくことができるのではないかと考えています」と話し、SDGsや持続可能な社会実現の受け皿になりえるとの認識を示しました。



日本自動車会議所は6月28日、東京・港区の日本自動車会館で第292回会員研修会を開催しました。リモートも併用し、全国各地から計約60名に参加いただきました。今回は「情報セキュリティ10大脅威 2023 組織編」をテーマに、講師には独立行政法人情報処理推進機構セキュリティセンターの大友更紗氏をお迎えしました。講演では、自動車業界をはじめ国内でもサイバー攻撃やセキュリティ事故が多数発生している問題を踏まえ、特定の組織を標的とするランサムウェア（身代金要求型ウイルス）攻撃、サプライチェーン（供給網）の弱点を悪用した攻撃など、複数の「脅威」を詳しく解説いただきました。

具体的な攻撃手口としては、業務に関するメール



大友 更紗氏

を装い、不正なファイル等を添付したり、悪意あるウェブサイトにアクセスさせたりする事例を紹介。その対策として「システム管理者や従業員はファイルやリンクを安易にクリックしないなど、被害予防で油断してはいけない」と指摘しました。

トヨタ自動車が昨年、内外装部品の仕入先にサイバー攻撃を受け、システム障害に伴う国内全工場の操業停止に追い込まれたケースでは、「標的組織の取引先や委託先に不正アクセスして侵入、保有されている重要情報を窃取する」と分析。その上で「取引先・委託先においても情報セキュリティに対する定期的確認・監査、意識共有がリスク低減につながる」と訴えました。

このほか、組織内部の不正による情報漏えい、テレワーク等ニューノーマルな働き方を狙った攻撃などについても事例や対策を説明しつつ、「SNSやインターネットの利用に関しても情報流出や炎上の危険がある。組織内で教育も必要で、情報リテラシー・モラルを向上させることが大事」と強調しました。



Vol. 70

# 行く先々に、学ぶ

(一社)日本交通科学学会理事 吉村俊哉

この約10年、関東の随所で仕事をさせていただく機会が増えました。

都内から通いですが、近隣県でも「違ったもの」、特に道路交通関係のそれは、目につきます。県ごとに「早めの前照灯点灯」「反射材の活用」「横断歩道の歩行者優先」「車間距離確保」などが提唱されていますが、近頃特に興味をひかれたのは埼玉県の「KEEP (キープ) 38」キャンペーン、でしょうか。

昨今は、車に貼られたこれの洒落たステッカーも見かけますが、最初「38って何の数字？」とサッパリ判りませんでした。調べたら「道路交通法第38条」即ち「横断歩道上での歩行者の保護」のこと、話題の「信号のない横断歩道手前では一時停止して歩行者を優先する」ことと、横断歩道接近時の徐行や禁止行為等を経じたものです。

お堅い法律である道交法を「そうきたか！」と注目させる良い工夫、かもしれません。

埼玉県ではこの他にも現在「きらめき3H (トリプルエイチ) 運動」が提唱されていますが、この「3つのH」とは「早めのライト点灯」「反射材の着用」「歩行者保護」のローマ字表記 (すべてHで始まりますね) に由来する、いずれも安全

な交通を確保する上で重要な事柄といえます。

少し前には「01・02 (ゼロイチ・ゼロニ) 運動」というものも、ありました。初めて聞いてからかなり経つ気もしますが「車間距離のとり方の目安」という重要事項なので、陳腐化することではないでしょう。「いかなる速度の時でも、前車が通過した地点を自分の車が2秒 (より) 後に通過する」だけの時間的な間隔を空けよう、ということです。

秒数を計るのに、普通に”イチ、ニ”と数えたのでは、少し早い。昔、自動二輪車の教習でゆっくり走る際「百一、百二」と数えましたが、あれと同じです。2秒というのは最低限の余裕で、以前に米国流として聞いたのは「最低2秒、出来れば3.6秒以上を推奨」。人間の反応時間から考えると、公道上での必要性としては妥当と思えますし、仮に「速度ゼロの物体が眼前に出現 (考えにくいですが、例えば前車からの落下物とか)」に対しては2秒でも短かすぎるかもしれません。「公道上では、実験的場面よりさらに条件は悪化」する一方、というのが筆者の持論です。

当該県内の方々のみならず、広く知られて欲しいものと思いますし、地元の皆さまには「胸をはって蘊蓄<sup>うんちく</sup>を傾けて」いただきたいと思います。

## 日本自動車会議所会員 (2023年 7月15日現在)= 団体会員89、 順不同 =

- 一般社団法人 日本自動車工業会
- 一般社団法人 日本自動車部品工業会
- 一般社団法人 日本自動車車体工業会
- 一般社団法人 日本自動車タイヤ協会
- 一般社団法人 日本自動車販売協会連合会
- いすゞ自動車販売店協会
- トヨタ自動車販売店協会
- 日産自動車販売協会
- U D トラックス販売協会
- 日野自動車販売店協会
- 三菱自動車販売協会
- 三菱ふそうトラック・バス販売協会
- 全国スバル自動車販売協会
- ダイハツ自動車販売協会
- 全国マツダ販売店協会
- スズキ自動車販売店協会
- ホンダ自動車販売店協会
- 一般社団法人 全国軽自動車協会連合会
- 日本自動車輸入組合
- 一般社団法人 日本中古自動車販売協会連合会
- 一般社団法人 日本自動車整備振興会連合会
- 一般社団法人 日本自動車機械工具協会
- 公益社団法人 全日本トラック協会

- 公益社団法人 全国通運連盟
- 公益社団法人 日本バス協会
- 一般社団法人 全国ハイヤー・タクシー連合会
- 一般社団法人 全国自家用自動車協会
- 一般社団法人 日本損害保険協会
- 石油連盟
- 一般社団法人 全日本指定自動車教習所協会連合会
- 一般社団法人 全国自動車標協協議会
- 一般財団法人 自動車検査登録情報協会
- 一般社団法人 全国レンタカー協会
- 一般社団法人 日本自動車リース協会連合会
- 一般財団法人 日本モーターサイクルスポーツ協会
- 一般社団法人 自動車公正取引協議会
- 全国自動車検査登録印紙捌人協議会
- 一般財団法人 関東陸運振興センター
- 一般社団法人 東京都トラック協会
- 一般社団法人 神奈川県トラック協会
- 一般社団法人 日本道路建設業協会
- 一般社団法人 日本ゴム工業会
- 一般社団法人 日本塗料工業会
- 一般社団法人 板硝子協会
- 日本自動車車体整備協同組合連合会
- 一般社団法人 日本交通科学学会

- 一般社団法人 日本陸送協会
- 一般社団法人 日本二輪車普及安全協会
- 一般財団法人 日本自動車研究所
- 一般社団法人 日本自動車機器器具工業会
- 特定非営利活動法人 ITS Japan
- 公益社団法人 自動車技術会
- 公益財団法人 自動車リサイクル促進センター
- 一般社団法人 日本ガス協会
- 一般社団法人 日本自動車運行管理協会
- 一般社団法人 日本自動車用品・部品アフターマーケット振興会
- 一般社団法人 自動車再資源化協力機構
- 一般社団法人 自動車用品小売業協会
- 一般社団法人 日本オートオークション協議会
- 日本中古車輸出業協同組合
- 全国オートバイ協同組合連合会
- 一般社団法人 日中投資促進機構
- 一般財団法人 日本自動車査定協会
- 一般財団法人 全日本交通安全協会
- 公益財団法人 日本自動車教育振興財団
- 一般社団法人 日本鉄リサイクル工業会
- 全日本自動車部品卸商協同組合
- 一般社団法人 日本自動車購入協会
- 一般社団法人 青森県自動車団体連合会

- 一般社団法人 岩手県自動車会議所
- 一般社団法人 宮城県自動車会議所
- 一般財団法人 秋田県全自動車協会
- 山形県自動車団体連合会
- 一般財団法人 福島県自動車会議所
- 東京都自動車会議所
- 一般社団法人 神奈川県自動車会議所
- 一般社団法人 静岡県自動車会議所
- 一般社団法人 愛知県自動車会議所
- 一般社団法人 岐阜県自動車会議所
- 一般社団法人 三重県自動車会議所
- 一般社団法人 富山県自動車会議所
- 一般社団法人 石川県自動車会議所
- 一般社団法人 福井県自動車会議所
- 一般社団法人 大阪自動車会議所
- 一般社団法人 徳島県自動車会議所
- 一般社団法人 香川県自動車会議所
- 愛媛県自動車会議所
- 高知県自動車会議所
- 一般財団法人 大分県自動車会議所

(ほかに企業会員75、推薦会員1)